

# うんせんし まいそうぶんかさい 雲仙市の埋蔵文化財について



文化財象徴シンボルマーク

なべしまてい はっくつちょうさ  
～鍋島邸の発掘調査～

このシンボルマークは、おもに  
両方の手のひらのパターによって  
日本建築の重要な要素である  
「組み物」のイメージを表し、  
これを三つ重ねることにより、文化  
財という意味の廣さをうながす。  
また、このシンボルマークは、現在  
世界にわたる多文化の交流を通じて、  
この文化財精神を世界に広めよう。



長崎県雲仙市教育委員会

ひょうじかんばい なべしまてい ひかんご  
表紙背景「鍋島邸の絢爛桜」

# ○鍋島邸について

鍋島邸は、江戸時代から続く神代鍋島家のお屋敷です。江戸末期ごろの建物を基にして、明治・大正・昭和と改修・増築され現在の姿になりました。平成19年には貴重な歴史資料として、国の重要文化財に指定されています。

## ○発掘調査したのはなぜ？

現在の鍋島邸で一番古い建物は、万延元年（1860年）に作られた「御北」と呼ばれる部分です。二年後の、文久二年（1862年）には「長屋門」が建てられました。どちらもすでに150年の月日がたち、柱や屋根が傷んだり、建物下の地面も歪んだりしていました。このままでは壊れてしまう恐れもあり、大規模な修理工事が必要だと判断されました。



「御北」も「長屋門」も「以前あった建物を建て替えた」ことが記録に残っていて、それぞれの地面の下には、以前の建物の痕跡が残されていると考えられました。修理工事では、地面の深くまで建物の基礎コンクリートを設置することとなり、以前の建物の痕跡がなくなってしまう懼れがありました。そのため、今ではわからない昔の建物の手がかりを求めて、発掘調査をすることとなりました。

## ○発掘調査のようす

発掘調査は平成22年度に長屋門、平成23年度に御北部分を行いました。建物を解体すると、それぞれの建物の柱を支える基礎石が見えるようになりました。

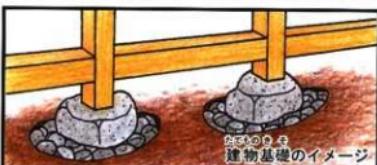


長屋門の基礎石列



御北の基礎石列

基礎石の横からは割れた土器の皿が2枚一枚  
で発見されました。長屋門や御北を建てる際の  
地鎮のためのお供えと考えられます。  
(前頁青丸部分)



建物のあとだけではなく、当時使っていた器なども発見

現在の御北の基礎石の下にも同じような石が使われて

おり、発見された石の集中は、以前建てられていた建物  
の基礎部分と考えられます。

されました。江戸時代から現在まで続く建物  
とおなじように、いろいろな時代のものが発  
見されました。神代鍋島家の家紋が入った  
瓦も見つかっており、家紋入りの瓦が使わ  
れたお屋敷があったと考えられます。

調査後は説明会を行い、多くの皆さんがあなたのロマンを楽しみました。



発掘調査によって、これまでわからなかった昔の鍋島邸の様子がわかつ  
てきました。地面の下には祖先の暮らしを知るため  
手がかりがたくさん詰まっています。これからも  
雲仙市の埋蔵文化財を大事に守っていきましょう。



# 雲仙市管内図

平成十七年十月

